



イベントを通して広げる子育ての輪 — かぬまっこ にこにこフェスタ2022 —

12月4日、親子が楽しく交流し、子育て家庭が参加することでその輪を広げることを目的とした「かぬまっこ にこにこフェスタ2022」が市民情報センターで開催されました。

3年ぶりの開催となった本イベントでは、各種団体の協力による工作コーナーをはじめ、手作り雑貨や軽食販売、景品がもらえるスタンプラリーのほか、同時開催された「食育まつり」における体験コーナーなど、親子で楽しむ企画が所狭しと並び、会場は子どもたちの笑顔で溢れました。

国内最大規模の木造校舎を見学 — 北小見学会 —

12月11日に、鹿沼まるごと博物館第8回企画展「学校誕生」の関連イベントとして市立北小学校の見学会が開催されました。

昭和10年に建築された同校舎は国内でも珍しい大規模な木造校舎で、令和3年2月28日に耐震改修工事が完了しました。

約30人の参加者たちは校舎内を見学し教室や中央階段を懐かしんだ他、建築構造や学校の歴史に関わる講師の説明に興味深そうに耳を傾けました。



自然の中で、のびのびと — 「カソトモの森パーク」オープン —

加蘇地区ふるさとづくり協議会が、耕作放棄地対策の取り組み事業として整備していた公園「カソトモの森パーク」が完成しました。

敷地内には、ブランコやシーソー等、子どもたちがのびのびと遊べる遊具が揃い、遊歩道も整備されています。今後は、体験型イベントも予定されており、地域住民の憩いの場となることが期待されます。オープニングセレモニーが行われた12月11日には、集まった親子連れで大きな賑わいを見せました。



77年ぶりに遺族の元へ — 硫黄島での戦争遺品の返還式 —

12月20日、硫黄島で戦死した鹿沼市出身・室田盛浩もりひろさんのご遺族に対する遺品の返還式が行われました。

遺品は、室田さんの父親が戦地に送った物資に付けたと思われる木札（写真）で、アメリカの太平洋戦史研究家・ダニエル・キング氏が市に宛てた遺族への返還を希望する内容のエアメールがきっかけとなり今回に至りました。

市長から遺品を手渡された室田さんの姪・瓦井紀子のりこさんは「キング氏をはじめ関係者の情熱や尽力に感謝したい」と話しました。

南摩のみんなが一体となって — 南摩フェスティバル —

南摩地区コミュニティ推進協議会が実施する「南摩フェスティバル」が12月11日に南摩コミュニティセンターで開催されました。

下南摩町によるお囃子にはじまり、鮮やかな衣装に着飾った笑顔あふれるよさこい、ご当地バックでおしゃれにコーディネートした中学生のファッションショー、ふれあい農園の餅つきなど、さまざまな催しを実施。自治会や世代の垣根を越えて南摩地区の人たちが集い、地域一体となってイベントを楽しみました。



スタート！自動販売機でふるさと納税 — 鹿沼地区ゴルフ場協議会と協力協定を締結 —

市は、ふるさと納税事業推進のため、鹿沼地区ゴルフ場協議会とふるさと納税事業協力協定を締結しました。

協議会では、加盟ゴルフ場である鹿沼カントリー倶楽部にふるさと納税自動販売機を設置し、12月1日から運用を開始しました。寄附者は、寄附額の3割分のゴルフ場利用券をその場で受け取ることができます。その日のプレー代などに利用することができます。

※鹿沼市民は寄附をすることはできませんが、地方税法により返礼品を受け取ることができません。

今年度の活動を振りかえる — 「鹿沼かえる組」令和5年度成果発表会 —

「鹿沼をかえる」、「自分をかえる」を合言葉に活動する市内在校・在住の高校生によるグループ「鹿沼かえる組」が、活動でお世話になった人たちに向けて、鹿沼の魅力を発信するイベント「やんぐ祭」を中心に、今年度の成果を発表しました。

発表の中で生徒は、「地域を想う人々の協力によりイベントを成功させることができた。これからも活動を続け、鹿沼を、人を笑顔にする街にしていきたい」と意気込み、観覧者からは「チャレンジ精神を忘れないで、成長してほしい」等、応援の言葉が多く寄せられました。

